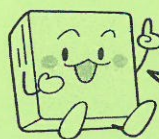


6月の図書館だよ！ 特別版

弥栄中学校図書司書 横山貴子

11日（火）5～6時間目に全校総合がありました。

普段の生活の中で意識することは少ないかもしれませんが、私たちは世界とつながっています。そして世界で抱える様々な課題も実は無関係ではないことをこの授業を通して知りました。また、「地球上のみんなの幸せのために世界が合意した17の目標、SDGs」について学び、様々な課題解決に向け自分たちができることを考えました。もっと深く知りたい人、視野を広げたい人はこれから紹介する本を読んでみてください。



読んでみない？

（多目的室前の廊下と図書館内に展示しています。借りたい人は図書館まで本を持ってきて貸し出し手続きをお願いします）

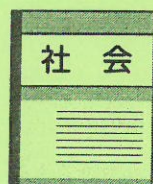


「世界がもし100人の村だったら」シリーズ（マガジンハウス）

（発行当時）63億の人口を持つ今の世界を仮に人口100人の村に置き換えてみるとどういうことになるか。性別、人種、宗教、言語、生活状況などで人を分け、その割合をみるとみえてくる問題点。

貧しさは、豊かな国の側が作った世界の仕組みの問題なのかもしれません。

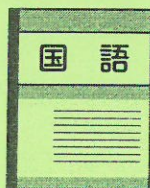
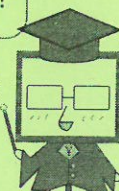
SDGsは各教科の教科書で学ぶことだった！



…SDGsに関連すること

3年生の「公民」の教科書の最後は「国際社会」について学び「よりよい社会、すなわち持続可能な社会」について考えます。

学びはつながっておるんじやお！



…児童労働

2年生の国語の教科書に「小さな労働者」（ラッセル・フリードマン著）という作品があります。これは20世紀初めのアメリカでの児童労働の実態を写真を通して世の中に訴えたルイス・ハインの物語です。「子どもの頃から働かされることによって、無学なまま、貧しく、悲惨な人生をおくることになってしまうのです…（P81より）」彼の写真はやがてアメリカの世論を動かし、子どもたちを過酷な労働から救い出すきっかけになりました。

教科書では他に「わたし8歳、カカオ畑で働きつけて」

「イクバルの闘い」

「このTシャツは児童労働で作られました」が紹介されています。

世の中にあふれる深刻な問題に対して何をしたらいいのかわからない、希望がもてないと感じる人もいます。しかし、これらの本を読むと自分ができることを考え、始めた小さな活動でもあきらめず続けることで、やがては世間を動かし、国をも動かす大きな可能性があることを教えてくれます。

…環境問題 3年生「絶滅の意味」では環境問題や生物多様性について学びます。